

団体・組織名称 (地域名)	組織化までのステップ				設立後の取組							
	①きっかけ	②課題の提起	③地域の実態把握	④組織化	⑤推進メンバーを募る取組	⑥活動の拠点	⑦活動実践	⑧地区住民福祉活動計画の策定過程		⑨課題解決の実践	⑩社協コーディネーターの関わり	
1 平屋地区地域福祉推進協議会 (美山町平屋地区)	地域住民が互いの支え合いの輪を広げ、暖かなつながりを実感し安心して暮らせるように、お互いの横のつながりを持つ場を作るため。	・福祉の拠点作り ・立ち上げ準備会を開催(H22年2月)	①956人(H22年4月) ④・福祉の拠点作り ・高齢者の居場所作り(旧平屋保育所の活用) ・団体どうしの繋がりがづくり	①参加団体(当初) ・婦人会 ・老人クラブ ・ふれあいサポーター ・美山子育てパートナーズ よつといで ・民生児童委員 ・小学校PTA ・保育所保護者会 ・中学校PTA ・子育ての会 ・ふれあい委員 ②(設立時)振興会会長(現在)ふれあい委員 ③振興会(発起人)(現在)会独自に事務局長と会計 ④振興会・行政とは別の独立団体(連携はあり)	H22年3月 ・定期総会と全員研修会 ・視察研修(福知山市) ・ありがとう作品展 ・ふれあいカフェ ・世代間交流事業	・コミセン ・保健センター ・平屋小学校(旧平屋小学校) 地域福祉、生活支援拠点	・竹細工名人 ・尺八演奏 ・ピアノ演奏 ・子育てサロン ・大谷大学(教員、学生) ・ポイストレーナー ・囲碁、将棋、パソコン教室 ・北桑田高校美山分校 ・あゆみ会 あゆみ工房	・集落における移動支援調査 ・ふれあい委員民生委員交流会 ・サロン従事者交流会	①つなごろう、ささえあおう ②全集落でのサロン開設等交流の場づくり→移動支援の仕組みづくり ③福祉協役員会	・H27年4月「住み続けた平屋プラン」(H27～29年度) ・H30年4月「第2期住み続けたい平屋プラン」(H30～R4年度)	・移動支援に関する調査(H30年、R01年、R02年) ・住民と学生の協働による高齢者宅のふれあい・ささえあい訪問活動(お話しの手伝い)H29年、H30年、R01年 ・おでかけツアーの実施 ・移動支援(生活支援活動)プランの協議	⑤⑥⑦⑧⑨ 役員会議に参加、事務局の支援(計画策定の支援、研修の提案等)、事業の補助や参加、情報提供等
2 知井住みよい安全安心の町づくり委員会 (美山町知井地区)	老人クラブより提案された「高齢者の引きこもり問題」を解決するため、全集落でのサロン設置を図ることを目的とした。	・地域ワークショップの開催	①767人(H23年7月)	①・民生委員 ・ふれあい委員 ・振興会 ・老人クラブ ・消防団 ・駐在所 ・PTA ②振興会長(現在はふれあい委員) ③振興会事務局が兼務 ④独自の団体として振興会・区と連携	H23年7月 ・定期総会 ・知井文化のつどい	・知井会館 ・旧知井小学校 地域福祉、生活支援拠点 ・ショップ21	・ワークキャンプ ・雪かきボランティア ・佛教大学	・地域別懇談会 ・高齢者宅の聴き取り訪問調査(97人)H30年2月 ・佛教大学生による移動に関するアンケート調査	②全集落でのサロン開設	(未定)	・ワークショップ ・移動に関するアンケート調査 ・雪かきボランティア ・民生委員とふれあい委員の交流研修(要支援者の情報共有)R2年 ・民生委員とふれあい委員及び委員会役員による高齢者見守り訪問活動(R2年)	⑤⑥⑦⑧⑨ 会議に参加、事務局の支援、事業の手伝い等
3 大野虹の湖ネットワーク推進協議会 (美山町大野地区)	独居高齢者の見守りを地域で進めるべく、自治会をベースに恒久的なネットワーク活動をを行うため。	・前身は大野振興会発足当初にできた「虹の湖ネットワーク」 ・ネットワーク再開事前準備会(H23.7)	①887人(H23年7月)	①・振興会(事務局) ・民生児童委員会 ・サロン ・ふれあい委員 ・区長会 ・駐在所 ・消防団 ・老人クラブ ・PTA ②民生委員 ③振興会 ④振興会・行政とは別組織で連携を図る。	H23年9月 ・定期総会 ・虹の湖福祉フェスティバル ・地域別懇談会	・大野ふれあい館 ・虹の湖交流センター(旧大野小学校) 地域福祉、生活支援拠点 ・大野ダム	・福祉フェスティバルの開催(H28年～) ・伝統食の継承(料理教室) ・仁清の里づくり委員会 ・語り部 ・劇団MWO ・大野屋	・地域別懇談会 ・サロンでの防災啓発 ・虹の湖フェスティバル ・民生委員とふれあい委員の交流会(R2年)	①全ての人が住み慣れた地域でいつまでも安心して住み続けられる大野地域 ②虹の湖福祉フェスティバルを土台に多世代が交流できる場作り	(未定)	・地域防災講座、サロンでの防災出前講座の実施(H30年) ・サロンでの防災出前講座(R01年) ・虹の湖フェスティバルでの移動支援 ・ふれあい給食活動の協議(R2年) ・新たな通いの場開設の協議(R2年)	⑤⑥⑦⑧⑨ 会議に参加、事務局の支援、事業の手伝い等

団体・組織名称	組織化までのステップ				設立後の取組								
	①きっかけ	②課題の提起	③地域の実態把握	④組織化		⑤推進メンバーを募る取組	⑥活動の拠点	⑦活動実践	⑧地区住民福祉活動計画の策定過程		⑨活動実践	⑩社協コーディネーターの関わり	
	取り組みたい福祉活動があった(何か)	課題を共有する場(機会)	①人口 ②地域の活動(者、団体、事業) ③良いところ ④課題、困りごと	①参加団体 ②リーダー ③事務局 ④自治会・区との関係	設立年月	・関係団体の連携の場づくり ・参加団体との連携の状況	・協議の場 ・出会いの場 ・協働の場 ○の囲みは主たる拠点の施設	・地域内の力(より多様な人の参加、出番、役割) ・地域外の力	・広く住民の声を収集(懇談会、アンケート、調査)	①目指す地域のイメージ ②活動の優先順(推進順) ③実施体制	・計画策定日(予定日) 「計画の名称」(計画期間)	課題解決の取組活動(具体的な事業の実施)	
4 川辺活性協議会 (園部町川辺地区) 川辺振興会 (園部町川辺地区)	小学校の廃校を機に川辺活性協議会が結成され地域づくりの取組が行われてきた。	地区内の老人クラブ、サロンと連携して居場所づくり、介護予防、認知症予防	①744人(H30年3月) ③以前から続いている川辺地域としての行事や事業が今も息づく。	①区長会、消防団、老人クラブ、親父の会、等 ②会長は地区区長会会長	H27年4月～H30年3月31日	各区から区長及び数名の推薦人を募る。	○おいで～なかわべ(旧川辺小学校) 地域福祉、生活支援拠点	・グラウンドゴルフ交流会(H27年～) ・川辺のサロン(男の居場所)H27年～ ・ふれあい三世代交流会(H29年～) ・ふれあい福祉まつり(H30年11月) ・防災ネットワークづくり ・児童発達支援事業所つくし園の見学と交流 ・ウォーキングのつどい ・「いこレク」(ヨガ体操の場)	・地域別懇談会				
	旧川辺小学校の指定管理者を受け入れることを機に、川辺活性協議会をいったん解散し、新組織を立ち上げる。			①区長会、消防団、老人クラブ、親父の会、等	H30年4月1日					(未定)	・防災ネットワークづくり	⑦⑨	
5 住みよいむらづくり協議会 (日吉町四ツ谷区・佐々江区)	・廃校後の跡地利用。 ・佐々江・四ツ谷両区民と南丹市が連携して安心、安全に生活でき、交流・体験ができる仕組みづくりを行い、定住者を受け入れなど地域づくりにも取り組む。	・平成26年より施設利活用検討委員会を設置し市へ要望。 ・平成27年4月から準備会発足。	①224人 ④・多数が集う機会がない。 ・会話や考える、体を動かす、楽しむなど、外に出る機会が減ってきている。	①四ツ谷区および佐々江区の規約に定められた区民で区費を納入している世帯の代表者、区民で構成する団体、回の目的に賛同し、回と連携して活動することができる区域外に住所を有する個人及び団体 ③会独自の組織(会長、副会長、会計、庶務、委員、監事、顧問) ④顧問に四ツ谷区長、佐々江区長が参加	H27年7月4日	・定期総会 ・視察研修 ・オープンデー ・健康教室 ・参観日 ・その他各種イベント	○五ヶ荘地域活性化センター(森の学び舎五ヶ荘) ※旧五ヶ荘小学校 地域福祉、生活支援拠点	・立命館大学との連携事業(1まち1キャンパス事業)の活用→視察研修、朝市等 ・オープンデーの開催(～R元年) ・「まなびや通信」の発行 ・健康教室の開催(H28年～) ・森のマーケットの開催(R2年～) ・五ヶ荘卓球クラブ	・地域別懇談会の開催 ・佐々江区聞き取り調査(R元年)	①いつまでもここに住み続けたいと思える町づくり	・H31年3月「四ツ谷・佐々江地域 わたしたちの未来図」(H31～R3年度)	・健康教室の開催(H28年～) ・佐々江区困りごと等聞き取り調査(R元年)	⑥⑦⑧ ・各種事業への参加 ・役員会への参加 ・事業への支援
6 元気にすごせるまち宮島協議会 (美山町宮島地区)	子供から高齢者まで、全ての人々が元気に過ごせる町にできるよう、地域福祉に視点を当てた取組を推進していくため。	・地域振興会地域振興部 ・立ち上げ準備会を開催(H30年6月)	①995人(H30年6月) ③町の中心部であり、比較的若い世代が多い。 ④町内他地域に比較し、不便を感じる事が少ないことから、「まだ大丈夫」という意識が働き、福祉推進組織がこれまでなかった。	①・振興会(事務局) ・民生児童委員会 ・サロン ・ふれあい委員 ・老人クラブ ②振興会役員 ③宮島振興会 ④振興会・行政とは別組織	H30年6月	・定期総会 ・おでかけツアーの実施 ・ふれあい委員、民生委員交流会の実施	・美山文化ホール ○宮島振興会 ・美山小学校 ・美山中学校 ・市役所美山支所	・カフェすざらん ・サイクルシーズ ・ピアノ演奏 ・竹編み名人 ・自力アップ体操 ・京都Xキャンブ ・美山ふれあいホーム ・木かげ ・エビスヤカフェ ・佛教大学	・地域別懇談会 ・ふれあい委員民生委員交流会 ・福祉協全体委員会	①子供から高齢者まで、笑顔で元気に過ごせる町 ②お出かけツアーの実施 ・世代間交流 ・元気アップ体操 ・全集落でのサロン実施に向けた支援	R3年3月予定	・お出かけツアーの実施(H29年～) ・ふれあい委員と民生委員の交流会(例年) ・元気アップ体操教室(お出かけツアーと同日開催)R元年～	⑤⑥⑦⑧⑨ 会議に参加、事務局の支援、事業の手伝い等

団体・組織名称	組織化までのステップ				設立後の取組								
	①きっかけ	②課題の提起	③地域の実態把握	④組織化	⑤推進メンバーを募る取組	⑥活動の拠点	⑦活動実践	⑧地区住民福祉活動計画の策定過程		⑨活動実践	⑩社協コーディネーターの関わり		
	取り組みたい福祉活動があった(何か)	課題を共有する場(機会)	①人口 ②地域の活動(者、団体、事業) ③良いところ ④課題、困りごと	①参加団体 ②リーダー ③事務局 ④自治会・区との関係 設立年月	・関係団体の連携の場づくり ・参加団体との連携の状況	・協議の場 ・出会いの場 ・協働の場 ○の囲みは主たる拠点の施設	・地域内の力(より多様な人の参加、出番、役割) ・地域外の力	・広く住民の声を収集(懇談会、アンケート、調査)	①目指す地域のイメージ ②活動の優先順(推進順) ③実施体制	・計画策定日(予定日) 「計画の名称」(計画期間)	課題解決の取組活動(具体的な事業の実施)		
7 NPO摩気高山の郷振興会 (園部町摩気地区)	小学校の廃校を機にNPO法人摩気高山の郷振興会が結成され地域づくりの取組が行われてきた。	・地域コミュニティの充実 ・教育文化の向上 ・農林業など地場産業の新たな振興 ・都市住民との交流など	①1,553人(H30年3月) ③それぞれの取組に多くの住民が役割を担って熱心に参加している。	①人数310名、理事長、事務局長、健康福祉部長、民生委員、ふれあい委員、里の公共員 ④各区長が評議員に就任	H27年7月31日		◎旧摩気小学校 地域福祉、生活支援拠点	・摩気高山登山 ・摩気夏祭り ・摩気文化祭(まんぷくサロン) ・子ども未来塾 ・農村教育民泊 ・食育講座 ・歴史健康ウォーキング ・摩気の夢を語る会	・地域別懇談会 ・振興会三役、民生委員、ふれあい委員全員、老人クラブ協議会、身体障がい者相談員、各サロンによる計画策定検討会	①高齢者が生き生きと活躍できる場づくり、みんなが暮らしやすい環境づくり、支え合いの地域づくり	R3年3月予定	・地域合同サロン(まんぷくサロン)の開催(H30～)と参加者の送迎車運行実施 ・各区の防災システムの向上	⑦⑧⑨
8 住み続けられる町づくり推進会議 (美山町鶴ヶ岡地区)	全ての高齢者が生き甲斐をもって安心安全に地域で暮らしているように、課題の共通理解を計り解決の方向を見出すため。	・立ち上げ準備会を開催(H22年5月) ・地域振興会が中心	①887人(H22年7月) ③振興会を中心に、地域活動が活発	①・振興会 ・民生員 ・ふれあい委員 ・こぶしの里 ・タナセン ・区長	H22年7月	・定期総会 ・合同サロン	◎旧鶴ヶ岡小学校 ◎タナセン ・よっこらしょ(タナセン内) 地域福祉、生活支援拠点 ・林健センター	・タナセン ・ムラガーレ食堂 ・NPO法人桑田村 ・佛教大学 ・しめ縄作り ・栃餅 ・赤ずきん ・アユのおすそ分け事業(高齢者訪問)	・地域別懇談会	①高齢者が安全安心に暮らせる鶴ヶ岡 ②・高齢者の通院手段の確保と日常生活の移送サービス ・高齢者の見守り情報の把握と支え合い体制の構築 ・地域で支え合う人材作り ・スマートフォンアプリの活用	R3年3月予定	・地域内移送サービスの実施(H26年～) ・スマートフォンアプリによる見守りシステムの導入 ・佛教大学老年とも生き実習(計画)	⑤⑥⑦⑧⑨ 会議に参加、事務局の支援、計画策定の手伝い等
9 災害時避難者支援マップ作成会事務局 (八木町南地区)	災害時避難者支援マップの作成を毎年継続していく必要があるため	・誰が誰の避難に当たるか事前把握 ・避難意識の向上と避難所の整備 ・自治会未加入者や集合住宅入居者の情報把握	①2276人(R2年4月)	・南地区自治会 ・南地区自治会防災委員長 ・民生児童委員 ・消防団南分団 ・社協	R元年		・南地区自治振興会館 ・八木市民センター	・災害時避難者支援マップ作成会議全体会		①防災を切り口に各団体が連携し顔の見える関係づくりを図る。平常時からお互いを思い合える地域づくり 取り組みを積み上げ自主防災会議の構築を展望する。	R5年3月	・災害時避難者支援マップ作成会議 ・一人暮らし高齢者宅へ防火訪問 ・災害時要援護者台帳登録のよびかけ	⑨会議に出席